寛文五年撰 三冊 共六冊

特別
へ5
6043
1

福田文庫

誹諧の連歌近年世かとやりて皆人もけうとい
うとも昔より伝来る師もなく式目とてもあるさ
まはんべくと口ずさみ合うせるばかりなるべし
分と分さうなれさうれし何とう面白いというん者とひ
此道の法はいかうすとも猟人名人とゆうといへて功
とゆうべくさりとはいの余乃道とてもなるひ合せる事
さへしたとへば海河の猟師は山の名歌はなら
てあるやうく成へきとうんふ網をひき釣竿とさけ
よと言へしへ大さうの道ひとつとなるへと分別の
きはまりは同しく道理よりけり先まこの連歌師
の自作り分は去嫌と朝ひて後は同じく并用

横山重
56-4087

行越の若葉を思ひ分へきすとかくいふ時ある人
不審してさて連歌師ハ雅語をとくせられん
やといふ事りなの義也醫書をとき侍るとハ第一病
をうとさうとうとおもへはなを道といひ所境とかゝり
婦人小児をの道くれ才覚あり又紙と筆ハ同し
水のゝ流れゆけとも舟子ハ艪を引く櫂をとり楫梶
をとりくゝんのまゝにゆき筆去ハ船さをとり立く
棹をもつて所をきりて事にふれさまたをひら
かゝれとも雅語をとりそんあるへからす
とて連歌をなすとうんぬ一句をとといふ事すると人ハ
ものしらしさあるハ方れ心ゆく雅語の流き

かゝ人やもくくといふんとをつ人もあるかゝ
無用れわ事ゝ下句のきゝくゝりのわるハ
とらうの流てろわさハ流もしゝ方ハ流みゝ
奥座さハまりなれ道と流ゆまはいを狂歌ひとをさ
まといふとも生れつきゝ作法のゝさりのゝ
つもんハ俗ゝ事れ俗なるゝ人ゝもして書物乃自
見をとりいあつゝんの貴とあるつゝ也又雅語我の
ゝやもれ事ゝて流ゝ人ゝ事ゝ是も五七文七七
字数ゝ和の縁とゝをれをてにをはとゝゝ心乃
流さ流きれ者とする事ゝ事を連歌も同お也を
ゝゝ文字わまりれ句作ハ初心のゝゝまゝ事と

にくせとして必このありなしよしあしハ古き事なれと
なをとして吟味せらるへし發句も平句もいひ捨
つまりして文字数あまりすくなきハ僻事なるへし此故發句
もなりとおつゆるよ平句の仕立やう付心の思ひくまて
よくつゆくと申ひて忘れさるましきのこゝろひつくへき
我等なる此事なまさらく京田舎の友達教をとふ
ねり發句のよしあしをいひつゝ他愚耳よ入雑きハ害なる
すり及ひすまゝ中にはよく申してを世に鳴わたる
人にもまつられし句帳に入なといへる寿にては
批判もなへきやうなしかやうの撰集等くよ数まさり
まされともかくてハ我もひ入さる謂をもしるへくもなし

第に来るんすと口おしきまゝに我かゆへる自然の句
を我書集く此おの事ハ急なるなれと卑く點俳言
の用よりて又世なき人にもみなミせ示すせまほし
さり老のなやわされよ話をもたのしまるねといはるゝ
季材の他是みなもつしかひとりて興あきと思ひすかハ初
を趣向を句作りも人の心くよろかれも半ハ
うしつ是馬ハるつも道ハ同く稀もある東海道ふ
山も條あるる方へたもむけるへし衣裳の文ありハ食物
の味ひも好くく行出は我も同しとは知しも
其ひ害あるよハあるもさまさいつに我すたまさる父ハ茶
深味ひハおりりきまのことく思案し給へ世乃

人皆たのしき心有とさへいへば誹諧と云
ことのおかしきこと葉をもてつゞりぬるを云ぞ
まこと此ひとつの句作りよそほひをまなびもて
はやらせたる句あまたひとり世にさへこえ雑なる人しか
もなほひの物好にあさましき酒の酔本性とよばれ此の
此はおもしろく小野小町は百とせの姥となりて
此様乱することはすなはち道はすまさむとのはひ
まゝり世の躍の小町も世の下に作りなしけるを
めぐりかしこき小町といふなかさへたゆる
うへきにおもひてかの一本とならしめあたへる
[illegible]

春上

元日　毬打　子日　若菜
白馬節會　踏哥　賭弓　左義長
具足餅　霞　鶯　梅
春氷　春雪　春月　春雨
末同　野老　若草　松若緑
柳　初午　蕨　椿
佛別　春鷹　燕　帰鴈
雲雀　鷽　雉子　蝶

春下

花　梅　　梅嶺　　海棠

梨花　　幸庚　　蛙　　若鄭

三月三日　　鄭躅　　莖　　歡冬

春草　　藤　　永日　　春鄭

茶摘　　玄鄭　　三月盡　　雜春

小町踊第一

春上

元日

花梅乃かくしさや神の玉　守武

年ひらてしたひし文字は若書乃　宗鑑

今朝しらしの東かみのもちゐ乃

くひそめう鏡乃餅は年ゝ

二度ゝ川ハ固むすぶう乃玉　白云

年波のたゝやゝ試筆は和哥所　一日

わりあひさむしう年ゝ今年ゝ　貞徳

玉ゝやにゝん先てゝ門乃玉　徳元

春をまちそめてさくらの花
ゆくすゑや諫鼓苔むすとりの声
あるじ玉ゑりて宮やまうのもと
三笠や恵美次大黒かさり縄
寛永の十ゑりやの門の松
天筆やうすき紙ゑ先て和合楽
年こゆるとしとすやゆ朔日の
来源義や四方へうとみ乃衣ゑり
篤乃試筆の京ゑ今朔日ゑ
門松のめ百枝いゑ世ゑ二度ゑ春
書初い千代ゑやちゑにすると石

良春
春可
慶友
吉泰
長吉
直頼
白一
休音
宗祐
金徳
玄札

今朔やゆ紙義永よゑ乃ゑ西ひ乃擬
礼義ゑてかさり藁にもゑ海れ
めてゑやゆ吹ゑもゑ家乃風
ゑ乃の春いあるゑ月ゑ月ゑ年
寛永や十八ゑ乃義
年酒ゑ神乃湯ゑ庭かまや
屠蘇酒やゑけゑゑれ神の義
日のかゑすのゑけきゑ乃あるゑ
陽義ゑ酒やゑゑ門義
義ゑ実ゑの稚やまくゑい神乃春
若ゑい養老乃滝ゑ流れ乃

道与
愚道
宗安
貞室
成次
常倫
仲昔
圭吟
常知
赤得
梅盛

三方をもてなしうるやかの者　安騎
ロあけくじまれ年ろう暦う邦　幸和
四十うしうんとりう魚也壱乃表　知徳
すくか世れ寿ましに河やかさり縄　嶺利
年乃結やくりてれ祝いうひ物　素言
ゆうしれハ二重深也表乃いろ　恭重
天ちうや比ちれ我しひうしみ
蓬莱やを一所うを玉れ朔日やま　常辰
年をめやまうじて河水老乃表　亮
書ちれちまうえ年れまれれ　定親
聖代やうれ柳りうるの表

年と日ハ比翼乃ちう結をよの表　誉文
大黒のゆるにかさうや寿うう　宗利
年酒れ豊みてくや大かさる　友貞
うう神の御園や一二三ケ日　有哉
人代ホとんてちうやうのを　濁直
ゆうう所比代やを所乃花れ表　信世
日れもとの名紙祝てやけさの表　立夜
めうり業うう上の試筆や分まり　好子
神力とれうるれ春　末安
早咲や世より仏乃うれ花表　和年
ゆうとやうねく山れまを姫　宗雅

芸八二度花ゝ門ゝ柳さくら　寺田改之
得馬楽うたゝさこ紙えらひそめ　宗立
二度ゝ門ハ續日本紀ゝ神の長　正朝
蓬莱ハ山口ゝ今朝乃春　為親
道ゝ門や神ゝ花ゝ門ハ松　親十
今朝ゝ門ハ花の勅使ゝ民乃長　方孝
懐中やとゝ鶴うちおとし玉殊　智詮
書そめや演ハ長物とうゝ人奇　信元
蜀貴自立毎年宝ゝりや天ゝ下　好女
蓬莱や祝ひの奇ハ部乃物　宗立
奥ゝめゝ二ゝひ春ゝ光の長　昌久

門松を長ひきゝ千代乃やと　吉定
書苦や四海ゝ治ゝ長ハいゝ　親信
門長やゝハゝ紀二ゝゝ　友昔
元三や玉子乃ゝゝハ天地人　伊度重良
去年ゝ一豆花ゝ日乃かゝす　同親信
クルハルや章の乃ゝ物ゝひ物　常長
かゝゝ男やそれくのゝ長　未氏
岩戸ゝや今朝家ゝハ義ひき　玄古
明てゝ鶴笑ゝやゝひすを箱　宝用
十日ハ面いゝゝ御代乃長　久治
大梅くの花や極月ハゝ　久淡

若みの九元六年八月みの小川う郷　資方
試筆こと葉年乃かりらかき　元宜
春九年かさりこ松や二年くえ　行大
門出や法木乃中れやこ乃花　是雲
去年あやこ殿尺や子星もこの春　清原
新羅の御代乃春ゝゝや三川の春　重綱
天葉い和合楽ゝ春日う郷　貴女
年酒乃神秘や初くく伊勢暦　方女
万物や春ゝ試すゝ今の春　助久
年酒九祝や日本乃うち祝ひ　昌房
わゝ玉の祝葉つうせうゝ年

餅花い柳ゝえゝさくゝう郷
千里ゆく春も一歩のわゝ春れ
新春ゝゝ葉いつゝ九御巻さうか　一遍
中秋やかゝゝいのゝれうる乃花　玖也
老らくれうんあらゝれゝ春ものも　宗方
年の緒もあつゝゝ二度九春　宗治
うゝゝくく世い春なやかさう滝　重供
春限乃二木や門出松かさと　重机
二度ものや一郷合見神乃春　重ゝ
梓ら押くく春立ゝ西矢う郷　重昌
年ゝ年のゝ春ゝゝ福九神　良安

（年中行事）
（西村）

大服と神ぐらしてあろ業せんか　可全
坂ちえく名所紙をうや雪乃春　流味
わくむの年れうしうや鳥かつや　真之
元日や古今のゝ人　古今題　民正
神代よりうたの乳美や祝子草　通親
日ゝ新やとの朔わうねとす申乃年　登昌
酒の字とえうしう年の暦うれ　親直
ぬりめたまうや春ゝ日乃ぬうり　常久
山ハ雪そりやさうもはへきゝの春　一之
ちゝ縄ハ去年と今きのさいわれ　常勝
年をんゝもそうゝうあひつきか　宗恕

うゝひそめハんゝうちうさゝうの年　道職
三方うゝ清うしうというみにうゝ春　重次
うゝさめや油方嚴乃うゝ春ゝ　忠満
ゝ新やけみ初日つうゝひ春の春　貞盛
咲うしる梅をゝみうゝ元方うれ　光重
立春やうんうゝうゝかゝり秋津國　正章
佐保姫の生ゝ春うゝ市ゝの春うゝみ　政公
立うゝ百年ハゝへほにはうゝ日うれ　宗朋
年油乃神ゝのうゝやうゝひそめ　重貞
四年と京の池番やゝゝ春ゝ春　政之
うゝのゝとゝゝうゝ春やたちにてや　昌宗

世の矢八ツ立てなれや今年の長重
末遠き千ヒロ也ま今年 長敬
くし酒乃数さへ三門のうめ乃郷 永治
是といひうき色い巻てそ千ヒロの長 秀重
ゆりくれ玉乃緒ゆゆしく今年うれ 一正
年を立てうり新産ら年ヒ乃長 正直
緯文
中そに今乃ねて屠蘇酒ゆ一者 良和
天乃盛を地の理り立やクヒの長 家畔
長い寿ら紙いを日方氏 貞長
それ弦やいくヒまりり子世の春 一入
ら月夢のそれ寿ら立やミケ日 限光

年れ矢八ツ立てより祝ひそめ羽ら 祐孝
ら玉い古風とあつく扇ら郷 徳宗
ま玉そられうきそ元方ら郷 可巻
初年乃名をめてそや福寿草 播州 直清
ぬ三井れ井乃宮殿乃門ヒ 花房 信定
年盛や長紙ら神ノ身
いうヒなり心殿ら紀門乃雲 同
去年八ヒれヒ大ヒの巻や初ひ 渓 正長
賞得ら市れ名うや若ひと 金重 吉明
元日の云葉乃ひうや福寿草 石原 政成
年玉とれヒひうら寿福ら郷 英時

ゆつの葉に神乃社見やは代の表　江戸　侯甫
若ゑや一河のなれ四方乃表　小野　康意
門かさね松はは世ゐのうみ末乃表　同
餅花はは南枝小枝ゑはりうれ　伊達　重供
年なみの波うゑ紙ゑゑゑゑゑゑの表　重時
ゑゑ玉は扇やゑゑゑゑゑ乃表　重成
梅ゑゑをゑゑつ餅ゑゑゑや花は見　重慶
百合の姫　代を河もゑゑゑ川おさまる年始表　普矣
閏正月
くゑゑ年波正月の為やゑ左衛　光貴
雪ゑゑと名ゑゑれを若ゑゑゑは波　廣哉
早ゑゑゑや逢牛をまゑゑ年の表　良景

光ゑゑ年波年や年寄千代の表　規重
年波の神代は表ゑ伊勢ゑゑゑ　端竹
表とゑゑゑゑゑゑ砂表松かさ　宗信
年越て巣ゑゑゑや今朝の日は為　正盛
元日や日こゑゑわゑゑゑ文字心　重香
歳且は待の一詠ゑゑゑは乃表　正氏
年波や法神の中は政所　宣次
のとけさはゑゑゑ表や表見様　忠元
川乃波の花とこゑゑゑゑゑ乃表　吉里
ゑゑくと表わけ春六乃表は春　正頼
大年や市ゑゑゑゑゑゑ表　盛次

年ハ矢乃射上狩衣や去年今年
奥もしけく誇しかりしこそ
大ゆくの茅や紫雲の巻上
大小くや物ゆてまくて乃宿ハ去
書物や老くこそひまなりしか子
手ゑや雑賀ハ人の花うと
出うゑ乃筆にかうつや祈うろ
茅やくやものゆて去年今年
とゆいうう雑蓋の芋や物から
ゆる年空海と相住ゆ屋うの春
海士ハ子を出ゆうう物やりしかな

作十
親良
三入
玄保
康京
英兵
莫信
廣寧
長之
寛次
祐政

春上ノ十二

秋津ハ子ハうゆ今年ハ
ゆうり茅はゆうねのうゆ
行く羽ねを知とうこ乃始う祈
やし玉やみうくうろハ礼春信
天ハ九く四りきて地や四方乃春
諸人のうゆ乃春紙之新う祈
鶴日というう世界や玉子なる
今朝ゆうく物や福音ハ天下一
天地人の海や わうゆ三ケ日
茅松やかされしゆもも不老門
立春や千里一ゆうねりハ中し

徳宗
三況
宗昌
友次
夕霧
秀香
時久
厚成
友可
重良
之明

明暦のとしあらた

元日やむかしくもしらぬやこ入　上田 正辰

暦も日のうちに暦やひらきそめ　京 正長

我門は子日の松やかざり縄　定時

元日やよろこひ思無邪の人こゝろ　光志

年徳の八重垣作るかすみかな　但秀

名をいつしむらしとや春の宿　貞盛

世間や家並も空もかざり竹　就質

わか玉や若井汲のあつかひわさ　盛昌

春ハ萬葉よりてきかねうき松　得松

廻文

餅花ハこれ拄枯木なりける春　政倫

今朝のめぐ蓬莱かざのめぐ乃酒　養下

書初や春乃海道すゝむまつる　成元

新春の御慶めでたき家居かな　厚成

事たるハ難波津からや書の春　自笑

書初の先や古今の序やまと哥　如貞

門松ハたゞ右近のむまばかな　森 勝春

さえまきの枝かえなりける乃春　俳笑

さくらかる國のみんかく試筆かな　尾州 立心

酒すらやにぎはふ春のおどろかれ　播州 良重

立帰る年ハあやかれ老のかみ　正利

業平乃哥や言葉の花のおや小　正矩

去年なりし八歳をこえても花の春　平野 宗静

門てにかうやくるゝたるわこ草　森村　宗政
初春の　ゆくひとひやかさり縄　大坂　貞良
二度こゝろやはしめとわこゝろ　春行
岩ゐや一枝とりのまゝやゆ　同
わこゝ玉や今朝ゐこゝろ年の年ゝ　宗後
年酒の相客なるまやあるひと　涼清
露寒ゐや芦原国の千代の春　村後
書そめの筆もゆくひや初こゝ　春仙
一枝酒こゝ所市こゝてなす春のとみ　正辰
恵こゝろこゝろ我かけや初対面　八木　不改
春立てこゝのこゝやまそこゝ　松尾　加次

うゝこゝ所こゝねやまそこゝめ　近吉
春ハ我射てこゝりぬこゝ先　春良
こゝ代を祝そこゝこゝん屠蘇酒　藤島
わこゝ水我雑こゝくゝまき年たとこ　不見
初春やこゝ明ひゝ抗亭　同
人乃世となりてこゝ乃こゝや春月　龍之
書そめかゝくまもなし祝石　尼　耻布
所こゝ玉ゝ春やゝんてこゝ今年　同
春迎の立木をこゝこゝかさこゝ松　冨長
こゝ事こゝてや四座のこゝゝ初　同
雑波津よ此歌乃面やこゝれの春　一函

高う代や天乃羽衣らうひう花　　壽信
秋月世うにかきやねさてうそ始　　林 宗甫
ゆ水や人のひとすん事うしあ　　宗滋
ちうしあいうへ八幡太郎月　　永之
正月の祝ひや福乃神まつり　　同
あうこせ宮神ゆ高く四方乃春　　重朝
花ゆいうこ又来添春や色り咲　　定友
年酒の祝ひ戸ぼうかさり藁　　同
ううひ神や秋ゆ月ゆ祝世流　　安直
のこそひう乳味うこ野の屠蘇ひ酒　　元貞
春陽乃法えとうり也門乃春　　三浪 國信

肉祝ひ生酒やうろひくこの春　　利之
老せぬハ神力うこ若ゆひと　　海雪
いうこひねーやいうこひこ神乃春　　親昌
人の代と祝てこうや祝乃春　　久任
世ハな人うく帝乃歌う庭竈　　知秋
ワ生うれよ祝こ拍子こうひ神　　同元
今ゆてみワ生れね人や福こあ　　同
物ゆうのあどひ大まう門乃松　　常保 忠次
うこ姫ひひうさゆうこ河乃春　　出雲 有惠
門松や秋津鴻春乃かさり物　　德懐
いのうゆ長くやうこうこ竹　　同

年毎に酒さかな新なるを以て
音温をうれやへくれる吉を今年　重宣
宿毒人くらうこそいてや屠蘇の酒　松ノ　重長
字句紙吉をとやいくん今日乃長　作田　松安
いくらふうう下戸なりねこを年男　道可
蓬莱や山のうひわる吉上の長　高壽
めてくらいとあるみをそれ長を以を　嘉風
正月や者ふもとみもひとあふ油　春良
長紙いくらふ新長や寿ら畏乃松　宣次
年をもかくやとれもふ試筆れ　直俊
長乃門やうくねえ乃松二木　催習

かさを松や宿をとうくて門乃あ　直久
和奇くりをくうくさハなる試筆ふ　勝之
書紙や和奇代道なくくれ代長　本也
筆をあや毛墨長の紙わくい　林元
ぶん縣と墨くり深てや為を以を　千久
永を代のたくへくきりかさわ竹　和好
長ら代や網承をくは福寿草　同
いくくふ深を長ら辛あくやうんこう
長代今朝ゆてくやいけこ目てのくを
印年　うくくふ筆ハ印代毛のふくうを邪
丁亥年ゆ　ぶちれとの入口いくくん義ふくき　白云

大くれ葉は年延乃湯しそうか　白云
大黒の杖やたちのえこの乃年　貞徳
ゑの水乃元さうを涌て元方う邪　同
霞さへもうに立やとうれやし　同
風風をおよのとけきとりのこ　同
と羽とうう波うや延うし九年　同
晩月てゑ寒いつ毒乃たうん河　同
ゑくさくは年延ようれやうるれ先　定一
一番ゑ耳ようを立そとりのこ　同
ゑの水と先こうをけをあうこの乃年　同
年越てゑ立毒乃毒や中やちみ　同

寿や枝てうとのこいこ花乃毒　蓑友
年の内小春いゑ末にうく様う邪　同
打そひう春の一月や市ゑ乃毒　徳元
子は祝ゑすくうくうちぬれ鏡う邪　同
常盤樹やゑ世ますうこのかさね松　玄札
うこのとれ面と先敵こやしうれ　重頼
洛中乃門や小野の一歩松　同
春うれて白を彩毒れ御蓑うゑ　同
是とうをせく立来うやゑこ乃毒　幸和
かすのゑと元あけ祝ゑむ月うゑ　同
毒やまうこうねと矢数うちうめ　同

祝ひ事なる長久長命や大命冠者　同
立春の日やいさうぶ乃一番子　同
立そろ〳〵去年やゝ下草とる乃長　知徳
年玉やゝ来るる長久雪こう　同
酉年酉日
どり〳〵小祝ひやゝ年と日久しめ　同
これや先長久しめ餅の花　同
長久しお客やむすゝはゝ縄　宗富
大ゆく〳〵先震立門あ〳〵こうか　同
門松やむへ年酒乃こやこら　宗旅
六十の年
今年こそや筆こうろうん子六十　同
長のろう河伝はるるやとり久年　休音

六十四の年
久やゝ赤嘗森をこゝ久年の数　童方
年玉のむこりハ金乃あきうか　童供
六十ひのまりひろ河子なゝ〳〵長　成次
巳の年
花咲てこうにひろう年のこうあれ　仲昔
小敷をこゝ縄かされ松しやし　同
年男数やれこうてこうひこあ　孫也
書初ハう長〳〵てこうえよまん　同
長を立く一こう章や朔日新　安静
春ハゝたつこうかこうあ　可全
お入のゆんてゝくこゝ門の松　千村一歩
花こうを先根ゝかつる年始こか　同

[illegible]の姫の手習ひ奥見うまつる焼餅　信元
依保ぶめや河あうさ行ふ[illegible]の長　信元
湯の盛れ孫[illegible]ふ[illegible]長乃春　重[illegible]
[illegible]や今ぶ[illegible]ひそめ　同
道[illegible]や文武周きこ乃長　同
うゝひ初や不く初のくれの長　良安
大神くや実めつうゝ長を立　同
きの[illegible]こそ年ハ長行うゝの行　同
長ハ数和要[illegible]ねうゝひ初　同
天ぶうぶ日ぶ[illegible]や地ふの長　重良
わゝ出れ年や四方乃あうゝ物　同

孫童乃字ふゝ[illegible]ゝ長れ春　同
年ゝれ矢数やとと浜花の長　親信
門松の右と[illegible]ゝりや二千せぶ　同
月の名や年[illegible]神れ右鼎冠者　同
書そりやゝ河ゝ月の十二点　同
年乃矢れ子の月や祝ふ[illegible]始　忠親
書矢れ小神や長れ[illegible]ゝ　同
詞のこう書ゝ[illegible]ゝ東久字　重良
ふ水を汲井のもゝや福聚海　智詮
祝耳れ[illegible]ゝのゝつゝや氷板　玄古
ゝふ立ゝくゝ乃酌ふ長うゝみ　吉定

春は名にかをるみやこの秋津島　清有
来ぬ春は春にぞしられしるしなる方　本親
神末う礼者に下馬の門松　廣通
ゆゑくに元年酒は神秘う郡　定時
うゝひ初やよろ紙酒かつる下うゝ　忠次
きのもしや松ふかうてうさを行　正永
門松やすゝくに立乃まつの元より　正重
大みくに濃菜うゝと菜う二度の長　可言
せんゝんの二菜ゆや生くに門に松　元重
うゝひすを志うなよ梅の花乃長　宗定
明てとを初ゆゝう立乃ゆや新古今　正辰

書初紙すゝみの元や筆乃海　正定
長といへゝと一ゝゝるゝゝや初うゝを　龍之
物いゝて祝へ歳うゝあにかゝ元　久勝
若戸うや元ゝゝきて祝ゝ鏡餅　親良
年をゝやゝ代に千鳥のゝゝ若　秋月
明てとを初なひくゝゝや一天下　久次
名に花のさに楽閑うきゝの長　常長
立うゝ年を一歩や旅乃春　恭重
世代の人　ゝゝゝゝゝゝ長　同
さか姫に春安房う長乃いろ　有哉
家くに此実やゆ年乃神乃長　忠

天地戸開立しうすすや布漳子　満直
年玉乃角付玉はしさう形　信世
とうはれ結とたゝや結上の神はれ　同
一天や雲のくもやしはれたるかの長　同
玉くく巻連理の枝よ花乃長　同
めてしうさはれよりをすう雑煮ゆ　同
一天乃冨士と志ゑ絵筆う形　好女
秘て京よりて月ハにとくく花のうやうや福寿草　同
年の紙や結ひ松ひすひ玉乃長　宗言
今ハ乃ゑりや四方正面とるはれ長　同
去年ハゆとうと組や橘種のはれ長　同

書そめや伏義の御代はれ一文字　同
大ふくハ月初度例と引栄うゆ　友正
脱ひ乃眉ゆう義や初ふそめ　宗立
三年ふこうう紙年ふ乃孔雀乃長　同
去年ふこうう孔雀乃長　方孝
去年ふこうう音　同
去年ふこうう姫の御里う巻りう長乃春　同
去年ふこうう紙ゆうう紙ゆひよ年の長　親十
去年こうこう鶴の鳥う長はれ長　同
門松や神代乃ゆうこうこう寄の種　同
年酒やうや姫はゆ茶のうゆ梅の神　親十娘

三國を先日れもとを今名乃墓　為親
日のもと乃花れ所や今上の墓　同
寄れ種はさせねは代の誠筆乃　方安
書巻の澤乃やくとる墓　同
めてしれ云筆やしく花の墓　同
来世墓ハ年はよなれや虎れ墨　同
元日や四海ふそ一はく　嶺利
とるしる筆や例の中書　同
天れ中の去年と今や数居乃　同
年西乃徳やうさわる墓　同
閏年よりとるとへ十三月の墓日乃邪　同

元日ハすゑ初るこゝの扇乃邪　同
跡ゆゝを二子乃見る事上の墓　同
明暦乃文字乃やゝ上れ墓　常辰
書いねるとれわせと年の墓　同
来る墓はれしとる紀やニゝり　同
とるしる筆や一對去年今年　同
元日や毎度の和れとるもゝへ　同
一天れ日や面見乃神れ墓　友貞
礼楽の世乃うる時や書上の墓　同
乃くやゝ川の六川乃年れ春　同
年くとるへりてわ墓ひと　同

餅花を三ゝ一ゝえてゝ枝　同
蓬葉は山や漏出の今雅なる　定親
蓬葉乃玉は枝やさくらるの長　同
わゝ玉のゝ長や連ゝ二度は長　同
うゝ山や年もゝゝねの年乃雅　好与
閑なる文字や表して門の松　同
餅花や元日草にまさりの茅　同
十二時今為まるまや初子日　秀立
古年の寄やめてゝ紀氷撰　同
門松やゝ門横町の道ゝゝ人　来安
大ゆくやゝゝさにさくゝ事りゝ　同

下ゝゝを長ハ茅みまりうハ小雅　和年
洛中や神乃花園々乃長　同
寛文九年癸丑の元日
清ゝゝゝや年日ゝゝ鶴汀　同
若ゝを仕の摘ゝゝあゝゝ年　政之
書初や茅集ゝゝゝ乃長　宗雅
三光の徳　曜や御代の長　清市
寛文良元明年
茅ゝゝ長ゝ光ゝ世ハ記ゝゝゝ長ゝゝ　同
岩戸也ゝゝゝ打さまゝ年松ゝ　常長
大学の綱紀やゝゝゝ伊勢暦　昌房
万寿乃御歳ひゝまゝ神ゝ長　同

うらひすの音や古今乃三ケ日　同
盤觴のなかれや むろきの代の長　立圃
年をつむ世わや餅花なるの長　同
花なるは白銀や 枝よ長乃春　同
書そめや 筑紫の数の一ぞん　同
そなるなるや 年中行事 成の長　同
年徳の神 れとわのう門乃松　同
世さうりや上ぞうを花の春　同
長永といつやとこれかさう縄　同

縄打

縄打ハ玉とうらおの小槌う那
永風ふとなる玉ふるるや寿れ寿
正月ハ門ぞを羽根とはくいき色
やり羽子をとれとうせる笑うれ
羽子板のうしや絵合るわりせ

弁光
泰重
保後
重昌
立圃

子日

引のうせ子ハれる日乃子世れ松
君よさへ縁りむうる小松う那
老松乃古音とも引や初子日
引うせくさ子日れ姫小松

重貞
知徳
友正

十二支ものやこの日の姫小松　後雅
いくとせけみ老のよもを引小松　方女
これをまた引やかの松の院の例　和年
祝のひして腰をなつるや姫小松　未知
松ぞ引くゆるとしのうさの子日うれ　重昌
思なくそひくく松や姫うかく　歌言
祝ぐくみの引あひくくの姫小松　円
姫ぞうくはまたやむうん姫小蕾　信世
袖と袖引ひくくうむ発小蕾　同
うしろかみをむうく若菜姫小松　同
忘の根ゝくくの引そひくひの小蕾　登之

遊ひてや引もくくうねの小蕾原　来安
雪小ゑく松や祝子と乃かくれ里　友貞
子代と引小松や若菜の姫れすん蕾　昌房
あよゑくくの小蕾やわ色祝ぞと　豊園
引音や若ゝ紙ぞ例乃初子日　同

若菜付七種

子世をぞ祝ひくくかハ下女ものなく
菜こゝもりや雪ものくくひと菜　吉久
ぞくくと摘くそくくれ水ゝね芹　常和
まあれ水ゝ袖小姫世わくかう邪　宗富

まのうせんの月の海しきハすくかうれ　重頼
長月の野なかなるあくわう葉か　正甫
雪佛ちなて跡ちや仏乃庭　重供
七種と元ちなね六乃ちる野うれ　吉数
櫻
葉の中ハ清こつ流れみ川ハうかれ　法路　長之
月
はちい清ん川ハ紅ハ川　元晴
月
雅を抱んてうつこそあ葉田支者　治定
月
我う水ハ流ちれうふ葉ハと川　家経
月
仰ち花いちくれ七種ちふちう　信世
月
ちう水葉清ちを　きれなつみ汀　有哉
あ月を仰す籠ちたまちやう人葉　同

葉にめてく紅ちとうそ抱くちう　宗澄
長の雅や葉菓喩ハほとけの庭　守正
か月ハくたちを花ちや湖孫竹　乾宅
一籠とうちや蒙をれうしを葉　一通
清やち紅ちくなつふと祝秋　行富
清やうち人いちちみたくあちれ　白云
菩提ちとう人末うちちや佛の庭　専加
花まねとも波のしちけう孤葉ハ　平外　一重
つち月せあ野ち色ハちこたち雪　水口　之直
心ちあちく服ちあちつみ和うれ　伊貞
深雪ハ枝葉ち白しちのち葉　春倫

うれをゝ宮ゝ呼ゝうゝひと葉　高尋
山里も春とゝうゝ乃枝葉う邦　恒行
七種や唐土ゝゝゝ日本國　信元
なゝうゝゝて葉とゝ月まてゝゝゝ　業次
唐津ゝて摘物もゝきゝゝう葉うれ　定治
枝花とゝゝ木ゝゝゝゝゝゝ佛の座　立云
七種や春とゝゝゝゝ乃俳句座　親信
ゝゝゝゝれ葉ゝゝゝゝゝゝ宮やゝまゝう玉　定親
賣人やゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝひと葉　同
源氏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同
源すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ邦　同

白馬
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ雲乃上　定親
鵜飼
ゝゝゝ玉や宴ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　親信
賭弓
弦ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ代ゝゝゝゝゝゝゝ　藥
左義長
左義長ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　行風
左義長ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　清中

具足餅

文人拾遺まちうやうの豆餅　阿州　正信
拾遺ものぬれたる豆餅　好孚

霞

四方山ずりかすみ西きうすみうれ
あてよこうもうかすみたるふ
山ぶしみ海みかすみうるうもみうれ
花鳥ず綱ずかくはうえんう邦　利清
天と地乃月立ぬうやう雲うすき　弘永
山眉ハ寸ず一ずれうすかすみ　政之
わさきねやうそれ山家乃うと霞　自笑

乾坤とうを筆とる源かとこ水　但秀
遷文まやうあのうすかうるうもみ立田やう　同
月　月すうるは白雲くうるかすみ　信元
月なうすつこ月すうるかとこ立田う邦　勝弦
宗本あの霞や雲乃水きうの　伊予盛直
山ず引ハ大海なうてうすうれ　武本正信
仙術うかすみみ山ハうれ里　重良
清里やなうひれ思の雲うすき　永利
うけ山ぬうちまうれるまや八宗霞　牧浦宗利
山うこんうすうや月ハかすむや　和好
小初源や月うすうも余乃うすみ水　一岡

春風やうすみの関紙をとをり　清等
京うひとへ立をとるや八重うすき　鳥取住不及
深瀧のうすきにれなるみやなりしわき　定親
風ふなひく烟やうすむ雲乃奥　好与
せいめいう滝やうしに一うすみ　常辰
耳鐘ゝ寺ハ立しとゆふかすみ　同
酔うすす酒やうすきの立くすみ　信世
同て付くくるれぬものよ春霞　同
夕なて人の月よりの雨うす乃　同
三隅山ふ枝多ちするや春かすみ　立圃
伊保姫の十二一立ゝ雲うすみ　同

多ちそ立や濃茶のよれうす霞　同
時仮乃立ゝひい何雲うすみ　同
百物ハ神うくれするかすきうす乃　同

萬

とのつくうくうくひすや霞乃行　屋一
うくひすの初音や絶乃一ふ巻　松一
うくもにハ春星日をやかうへ寄　良徳
雪乃湖音ふれうす寝うす乃　弘永
深緑野ふて なく雪や新ふよ絶
春星とまつうくひすのうくうくふ　如雲

うらひすもむめ玉妙乃一字うか　忠也
萬代まね琴同う法乃こと　永治
うらひをの宮ゝや天下一代音　大久保見仲
簧やうらひすの引く琴の法め　一原交我
うらむ波乃音ゝやわらをゝ棹　嶺利
萬ゝ法未代宮やゝるの乃こと　吟立
うらひすや法花経第一の琴　未知
なゝ波ふなくうらひすや大和歌　信元
萬ハ君代やゝうの引こと乃邪　誉之
うらひをの琴ゝ紙と乃経乃楽　妙与
うらむ波と梅と乃比翼連理乃　一井

法花経ゝ心や妙音会衣宮　立玄
うらひすの音や長毎ゝ奇　楽言
萬や妙音不乃経巻ゝ　瑞竹
うらむをハ奇仙うるの梅代衣　元親
うらひ波の絵乃秘曲や柳花苑　方孝
萬乃なゝや梅代ゝすゝ免　冨長
うらひすの和奇三神や月日星　李吟
和うゝうらひすや法ゝ絵　奥田政之
梅う枝ハうらむをゝの唱奇うか　尾州清親
うらひすやゝゝね秘曲とたゝ琴　芝山民女
うらひをゝ妙の一字ハ秘いうゝ　福井重昌

萬やこゝ佛事なれば法かつけ　宗恒
生れかはるうらうらひすや法の發　當直
うらうらひすや日もさうわれ笛の曲　吉里
當れ巣立は梅の花子う邪　清宗
うらうらひすは梅うめひれ玉子うる　政之
うらうらはの當ハ御せしの唱ふ　同
うらうらはや来孔雀実今の移の移　友貞
當や法花經とかく蓮華野　同
當れ今く當や風乃とかり經　同
うらうらひすの逆ものれ庭鶏うれ　昌房
うらうらはや吹笛の言れいきうら　立圃

當ハむ発ふ法ひの言文う邪　同
万木の枝や さへ百千鳥　同
うらうらひすれ言や風の口うら　同

梅

正平記梅乃立殺や邪ちう　德元
さす枝ハ紅梅蕚う同のくさり
徒むめれ言る法きとれ白ひる
巣と同せわうそ梅乃文番う邪
紅梅と乃みふるや花れあね
末れ毋と言ういひそあく壱乃兄　芳炭

杉社のみちびき梅ゝ梅のもれ　栄甫
梅ゝ香やとゝめん柳のさもれ髪　元御
散なまつく人ゝ梅はもりひゝる　良春
うゝひすの音れ金谷やその梅　良徳
梅の夜ゆ香すやゝ日ゝけ　休音
ゆ紙をゝゝ一番梅そむめれゝる　幸和
長ゝゝは心易ゝ梅ゝ邪　正直
一をもて一方木紙ゝゝ梅花ゝれ
香ハ空方ゝ花梅なゝれ花をなゝ　貞徳
勅使ゝ梅ゝゝ梅花のゝゝれ　同
梅ゝ香ハゝゝ出ゝや浮乃内　同

花ハ梅のゝれ寛神や難波寺　同
津を引や梅ゝ梅ゝ花さゝり　同
咲ゝゝれ見ハ梅の夜香ゝれ　重一
梅ゝ香ゝひゝれてゝゝ牛天神　同
梅ハ香ゝハゝ木乃ゝゝゝ香　連一
夜をゝ何を香ゝ梅の花　貞盛
ほゝ梅ゝゝハゝ邪乃見　永治
梅一木みゝゝ海ゝゝ匂ひ邪　永次
線香ゝ火ゝ梅のゝれ校　好勝
梅梅ハ天満神乃御拝ゝ　貞義
梅梅やゝゝ門のゝれゝゝ人　意敬

花くはゝ難波のしめとをかうか　重頼
咲むめは香の屋うちん籬うゑ　同
梅いけ〳〵庶めつゝかり難波人　同
しをれのをゝ宿はきまをる十炬香　同
心自雪や松梅ゝ初連歌　同
園の春をまつひや梅は笠ゝ　正友
梅つゝハ風紙ひうせぬゆうひうれ　正次
ゝく花や先一ゝ梅ゆハさゝ　重方
難とてもゝ乃るめや塩のこゝ色梅　康年
釈迦ハやり梅ハみちひくゆうひうれ　弘永
難波津の梅やむしうゝ乃京腐　如貞

花ハ可也風ハ不ゝ庭乃むし先　松平重手　時明
世中ハ何不ゝうゝそひめの笠　昌意
八重一重咲や九嶽は宗乃梅　後屋
咲むし先のうゝとめてゝ紀花ゝ　玄札
梅ゝり園ハゝ鼻乃ゝ紀　竹生　得松
難を番も知人ハ来る梅の笠　雪行
冬郎月ゝ紀梅や次郎若　李吟
ゝゝ来ゝ其ゝうゝ伝濃梅　則常
月新を一ゝんゝてりむめゝゝ　不益
文を番も文ゝさ梅のすハえゝれ　良政
松のゝりや笠ゝよゝて一梅の老　義下

ひさまつ紀すけ　ひさまつ伝法梅　一下
かけ香う山梅と呂ろ此梅乃花　阿刃　正信
南枝小枝さ紀ふをなれや雪の梅　和年
ゆ天と銀色ろ乃ね梅や日うゝかさ　但秀
八重ふさく梅の美ゆやなゝ暦　信元
余のゝ乃ゝ紀花こゝ梅のゆゝひ　正安
徒玉ふ紀ゝゝやむ光此ゝるの秀　重良
天神の美想ゝ色ゝく宗此む光　家成
梅う香や貴賤ゝゝゝね神魚　玄的
花梅の香紀追松のゝゝゝ邦　造化　正信
ゝゝ徒ゝ行ふいけゝゝ梅の花　麿哉

梅う香や雑波入江の松いゝ
見前ゝむゝと乃ゝや梅のも　家秋
絵師のゝゝ子枝ゆゝゝむ乃花　為親
菅家昔梅うゝ古ふ末やむ光の枝　岩城住
乃ねと香ゝゝゝやゝゝ雲此梅　俊安
姫舞や好久末とはつゝゝれゝり　宗朝
ゆもひゝゝふゝと見徒人梅の花　貞伸
たいゝ此ゆと継ふ末やゝる此光　光弘
這枝ゝ香い花梅ゝゝれ乃ゝ也　常直
雑波女いいゝゝゝゝれや宗此姉　純弐
梅ふやゝゝ子幸此ゝゝ此光　重因
為親

十姫番う宮ゑも梅のまわり花　政之
梅やひうふわうゐ深小袖　未知
立なゝゐ柿や根生れ宮ゑゝら　信親
中垣や依怙贔屓なし梅のむ　清章
番いゝ試ゝひ使やひ光のやや　知徳
火とゝもす梅のうわりや三具足　立ゝ
咲さうゐ梅ハ定論うゝさひゝり　好与
冨士自在天れくひや富のむ光　嶺利
梅ゝ番て神力そゝれ御寶蔵　宗雅
貴宋う神の御名れ浦ひむ光　親信
雑波京や今れうやこゝろゝるの光　透立

万木れ白ひゝりやひ光のゝる　同
志原やひあ乃名れ杉ゝ紙ゝ庭　信雅
うゝうゐうれ宮ゝ園のひめれ花　同
火とゝもす梅や南無天万灯籠　未安
柿う番とゝもゝれ床乃下地宮　同
榜名てゝさく柿うゝやわゝ世番　同
御自宅とゝなゝやうゝれ松と梅　同
張ゝうゝ白れ月や三津の柿暦　定親
榜ゝけゝ子里にわゝへやゝの梅　同
まゝゝゝ白ひや灵美富乃柿　同
風の宮ゝ戸や寺ゝれねやゝの柿　宋言

梅の香やきく耳さうる夜半の風　同
松のうへや梅の紙ちらすわぶすまの　友貞
うくひすの梅や孫客やとのひる　同
紅梅のいろ紙ぬぎ世ろ夕日の春　常辰
紅梅や園をとをてすす法乃湯　同
（廣昌）梅の香やむうとと梅を佛さか　同
松ずをよ梅ぬかもしやみのうち　同
いきて香紙水を立る梅の節　同
梅の香ハ水の神橋乃紙り庭　昌房
雲梅や神の清代ぬつうめ　同
手文箱よ香をとそらるや梅の衣　同

南無天満大事ぬ末し雲と梅　立圃
唐物の立つや梅うう松やむめ　同
紅梅やかうりぬさわのとうれ　同
ひらうちうそれう九曜乃星ぬ氣　同
くまなく井の雪の二月ぬ梅乃ちか　同
なりつるやはそすぬえぬ梅の宗　同
梅ハ一本いつまうかはうゆ井言　同
くうつうや梅の花うさ月ぬ釜　同
八重一重ぬひうきさうや梅の花　同
（週文）松乃末ぬむめやうるやん彩ぬ使　同
ひうるやみなけよ文武對乃使　同

梅ゝ香や神慮ゝ下馬乃れ　同

春氷

春日小河ゝ氷や屋根ゝ瓦　上野安俊

ゝ瀬の日ゝ解てゝ氷ゝ　安明

氷ゝゝ瀬ゝ氷ゝ歩ゝ邪

解ゝゝ春のゝ日ゝ解ゝ　正明

春風の吹き間入ゝ瀬ゝ　宗言

ゝ瀬ゝ解ゝれゝ氷ゝ　玄且

若河ゝ流ゝ吉年ゝ　弘永

ゝ瀬の流ゝ紙屋川　清親

打ゝ解ゝ和睦ゝ水ゝ瀬ゝ邪　冨平

春ゝ日ゝ解ゝ氷ゝ歩ゝ　光任

日ゝ解ゝ氷の歩ゝ　政久

日乃河ゝ瀬ゝ解ゝ氷ゝ邪　親十

歩ゝ氷ゝ海宝ゝ瀬ゝ春日京　定親

春来ゝ解ゝ女子ゝ瀬ゝ　嶺利

莫ゝ解ゝ歩ゝ瀬ゝ邪　同

春雪

春日乃威光ゝ雪間ゝ　重頼

たゝむ人の罪ゝ消ゝ雪仏　徳元

花ハ雪ハ
雪ハ
打ちもくなるれや
迴文
きゆるは山も雪
同
なうとさく雪花ハいきゆ
同
返者
きゆるこれ
同
京さむし雪はやハらゆ彩在家
雪佛きゆるの郷や安二世三
消わるハむしる方後ら雪かたけ
雪かたゆきてなるれや切泡水
若くハ濁也冨士の雪なれ

永治
穂栄
政信
保友
勝祐
常吉
熟田
一甫
来名
貞利
壽硯
成次

山くや風市ハきそ雪乃京
雪ハ二字色若しるる日の邪
花なるは二月の雪や遅さく
余所のとろてやたれ雪ハれ
絶ハ切ちらやかの雪佛
春ハ雪やのうハ雪乃わるれ紀深
春くれもはもるし雪やくれ山
消うせく化やわるる雪女
くくくくて濃家とかくと行ハ雪
雪ハ春なれの女と成りもり
山のすると若ハなるれる雪女

信世
瑞竹
信元
正一
春倫
尾州
重行
當後
耕叔
久任
岩城任
政之

春月

三うの月のいるとやそのうらうめ　倫用
月乃出くるにかすみやかすうつる　惟玉
うすきゝやうとられてゝゆう月の影　常和
新乃世わ月のやかとみの衣うつき　正重
立くゝ乃よ袋物いなし春乃月　光有
胡蝶ゆうすひまうゝ春の月　嶺利
朧月い内侍とうれかゝみ乃郎　三有
廻文　源氏よきゝ乃ゝ紙ゝ乃月に笠　廣次
三ケ月やうすきの細ゝまゝ乃私　三信

天ゝのうう障子や春乃月　可卿
朧月よ立くゝものゝ花ゝ乃ゝ　倫用
かゝゝ乃とゝ月ゝ紙ゝ乃月の寂れ　秀立
張なゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ彩ゝよ春の月　昌房
ゝうゝとゝ乃ゝゝみゝられてゝ乃月　立園

春雨

春雨い花ゝ紙いそゝゝ乃郎う郎　宗有
除業乃いゝゝ見なれや春乃雨　貞室
花ゝゝ乃雨いゝゝゝゝとゝゝゝゝ　盛廣
吉せゝい地ゝゝゝゝゝゝ春乃雨　吉直

是もとれたるやをのゑ　信元
せんあくうかすとのゝうゑ　茨木 風春
まゑやわらの若れ　定親

木目

皮をうれかるき目や乃ち山桃の味　貞徳
万木のめくむい天乃発るみ乃　吉里

野老

其もとにとるやをとろの鉢ゑうか　季貞
かつをくうをそ世れうともみあわりとゝろ　早稲 重定

すくんもとゝろやをとろの若ゑ　好与

若草

一昨日いつんねゝ乃若草や弟上乃ゑ　立女
下もとゝろや河ゝ花の若むすび　定親

松若緑

うゝ嬢れ松やあいゝ子乃わらみゝ　堺 玄徳
立すうゝみゝにとゝろや姫小松　常辰
老松乃孫ゝ生ゝうゝんゝゝ　方孝
老ゑもゝろゝの寿てれゝゝゝゝ　立園

柳

春雨や柳乃うしろ武男石　大坂　休甫
就言といつと柳や勝ぶこう　自徳
彼岸の柳や泳除れ沛るの糸　長吉
うつくきれ天狗こをうつ柳　重頼
風おもわこれを柳乃涼ゆや　同
いうつうつ花鼓乾坤れこ柳　幸和
くむ酒の糸をうそ柳搖　元後
さう髪とうゆうは風の柳うれ　吉林
形枝ハ動んそうつやうう髪　永次

そうこの糸むすひはく柳う邦　武富
そうくれ柳ハかよ乃芸蘭うれ　巻麦
乱力なれハ風の心地れやるきう邦　休甫
渡雛のあれものくうや川やうさ　同
二まいハ月をうみ乃柳うれ　正麦
長糸を彩かやうれれもという邦　未次
同　うつうハ柳ううこうや墓こう　信世
いうれもゆうを海うう柳髪　道二
元みこ風情をもうや柳うん　知徳
雖ゆへそみこれをあ月やうこ髪　信元
言いゆうまま稱これ髪うう柳　越前　吉可

風ふきの糸とりやめ柳うゑ　俊安
くく（ゑは柳乃曲や鞠ふ場　定行
ひをまねや初乃弁さうゑ糸やなき　宣安
みふじすひもうや川辺ふ糸柳　宗下
とのうてみ髪やかけのくこう柳　貞成
一夢んすひくい越りやうさうか　元隆
月を寒小ゆうさうをを糸柳　月延
折とれもうふうやけうやうれうを　可全
うう風やかうまにわうう柳うみ　義仙
もち月や玉ふかんさうやうを髪　謙也
むすひりや寒ふ常ふ柳うう　棟善

長風みけつうや書歯うぶ柳　良久
いうせめうく立うまき物や柳うう　一夢
柳揺ふのをやう中ふ酒寒う弗　春良
長屋にうみむすひをり糸柳　立安
書柳い老木を見うやうをを　正朝
ゑおう乃柳や書紀のうれ髪　方孝
風のをふもうひ折を弗柳うか　親正
をのう寒ふみうれ彩うや柳髪　宗雅
記書ふ潮津なうれう川やうを　政之
立とを弗清ふふ美屋や柳法　常辰
枝とえうおわひうらや柳うを　宗言

枝くや千手の御堂の糸柳　信世
見ぬおひの柳や陽よりしの髪　同
風ぬけの玉ぬしいかゝやうさうみ　友貞
吉柳いとゝふかれ奇乃風情ふか　同
木を撫へ柳ひ観音の柳う形　昌房
行き玉ゝゝや玉ゝれ柳の奇の腰　高園
さか姫やかゝる柳の長かゝ　同
二まゝこの柳の風やあむし　同
吹ゝゝ風乃柳やかゝこゝん　同
髪と腰ゝゝゝねやゝれ　同
ゝかゝゝゆゝゝゝ柳ふ　同

新向や柳乃えゝ風乃神　同
ゝゝゝ水のみゝゝ川柳　同
里の名ふ柳乃ゝゝ橋田ゝ　同

初手

物むまいわれとゝゝゝ歩ゝゝ　友昌
ゝ月むゝれゝゝ鹿乃稲荷山　常辰

蔵

ゝ武形ハこれひゝゝ川やいゝさけゝ　重頼
百足ゝゝゝゝゝ西山　貞徳

御猟の山のかきりなし　照星
もえわたるかりのいほり　幸和
賢人ふるまひさらせる蕨哉　同
布なしてもしいも物うるはれば　貞好
山風のよしくいうしいる　成次
愁猴の宮ゝ下なるしのゝ　知徳
山みちはくるゝとゝ蕨れ　満直
せんまいそらとゝまるうれしひ
ゝれくるはゝ蕨ゝ　唐俳　正勝
さゝしやいゝ初ゝ　梵益
さわゝしのゝ車小雲こてゝ哉　卜琴

ゝ蕨のゝ知ひとなるかゝみれ　定親
雲風みうてゝ知するわるひる　立圓

椿

ゝ世遠の枝や雪ん正ゝ玉ゝ紅　徳元
わゝれしとかゝ知る矢倉椿哉　當直
花や蕨みるすいやうの玉椿　幸和
ちゝと目ゝの動やちゝ椿　三直
白玉ゝ何そゝゝ人は赤ゝ　一村
長為ゝいゝむゝのゝ紅　同
さうねるいゝ花よかりゝよ玉ゝ　正友

雲やすらふ雪やすらふ樵もち　守任
ちりぬるを法をたもつ花やちりつる　一守
櫻　木ハたきのひよやひたきの樵　一原　友我
同　名ハいうり　新ハ樵の二階とる
掃除をぬ法やいつまもちり樵　安哉
いけ花やをやんとをせられ玉樵　知德
ちり樵つもりて庭ハ山をうれ　長房
花ちりを拾ひつゝや樵もち　重頼
手ゐるや心ハ表紙のうまたたき　不卜
玉ぼうきをたこれうや表紙ぬるひ
ちを繕やぼうきをうゝ玉樵　定親

訪ふきたりをあうさをふかを西樵　常房
伊勢尾張名を樵ましけの樵うか　友貞
投ぬりハ千世ハ八千代の玉ぼうき　之圓
岩戸やひらけを白ゝ伊勢樵　同

佛別

雪ぼうけをうの水や跋提河　僧奚
稔ゝ養蚕なりをく佛ましれうか　養節
佛弟子をたをうの涅槃の絵れ　養人
あゝ本ハ絵てし法や涅槃像　知德
表面乃ちはなみをう涅槃像　信元

涅槃會にたなびおろす佛生世　同
かりたてるかんの新こんの涅槃像　祐財　忠知
うけまくをかすをうや涅槃像　貞盛
涅槃云ふ沖ふひこと知衣生うか　久任
飯てみまくや涅槃北會無宣離　常辰
かくれまくすくふの入貝や歌也ぬ素　同
涅槃會ようけしんをなくこうか　昌房

春鶯

北乃春はむへをかくよし女鶯　定親
逸物の筋紙継尾北鶯もうか　重良

燕

大海の翼や宇多ゆくくあ　恭重

帰鴈

紅なくはくくひ親よゆる鴈　吉定
比翼うやくれ紅くへてゆる丁　貞徳
花よりも園子やわりてくる鴈　同
可北字うかすこの宇みかくる雁　幸和
さ北いいゆく廬宇むてんよゆる鴈　同
迴文
鳴んかまりくうくりゆ鴈うか　時之
うくひと北琴にも廬遠ゆりかり　伊賀　志及
見北宇みなていくやくくて　但秀

野馬塞乃詩うきちゆう屠の文字　宗繁
くもを華う菊くいう色う天津うり　吉則
平砂ていハ蒲書ーてやゆう雁　秀重
う色う屠小物さうりれ年もう邦　空存
旅と世度あやうりのよゆうかり　重良
常世てもかへり新庭う天津屠　方孝
つ連ーちくゆうや屠も捧乃川　常辰
玉子ーてまちぬを何う色う屠　嶺利
いてきてやう紙下ーとかつうり　宗言
り屠やをそくくのえ字くを　同
年風吹や横すちうひみうう屠　友貞

春の部十七

ゆうてーー屠ハ庭変れ家より邦　信世
定ちゆうーー屠やうすみの一筆絵　吉圓
ちんちうや曲を清ふくゆう屠　同
方角やゆちひて屠れ中うり　同

雲雀

吹ちちよ雲れかよひち雲雀笛　宗立
息紙こあくうるの雲や雲雀笛　定時
為巻れ書ーけーきくやひちり笛　概純
ーきーー海書こそ雲井れ雲ちり笛　重圓
定ーちも地へさうりちや雲雀笛　吉孝

鶯

今はかぎりそよ世の琴やうそとて
きくとしれ雅ら藤よわう世の琴　肥前　如自
引ぬるやま程ろみ鶯ろうそ乃琴　信元
うぢを言い琴にすくれて所世也　盛直
蘭ハ月と寄けて世やうそ の琴

雉子

ろみ世い紙や雅ハ雉子れ火宅ろか　定親
りられぬさ紙小燒野乃雉子れ　利清

子紙ぬ世ハ雉子ハろうれろ小　貞徳
鶯ろみ琴の乃ん やとろ雅ハの雉子　重供
雉子ハろみ世ろ火ろろ小て燒雅ろか　一元

蝶

雅乃小なれこ章す ろ胡蝶ろれ　重頼
世ぬりハ二人ろ蝶乃章　章和
花ろ紙ちろ世ろこ乃こて小　重一
春乃雅ろ胡蝶の章れ芝居ろれ　同
法楽れ章ま雅ハ乃こてろ小　宗朋
からひとろ花ハこて章碁小　氏重

華とあるは蝶やさかりの風ふかぬ　親直
うはの空華まとふ胡蝶の二つ重　貞室
雪ふるやこてふの長の華　政公
伶人の華の胡蝶いづくにか　吉林
ちる梅や胡蝶乃羽の百年目　貞德
花ゆゑ乱れ羽ぶきや蝶の華　同
題文
永き日の華蝶花てこてふ二ひきかな
月
出れば花ハ咲くこてふ花のかん　重之
ちりては羽うつるを花の蝶乃華　風子
春日野と先ちる小蝶や大和華　政直
立かへる花やこてふの此乃華　鳳春

清流飛ぶて百万ぢ華胡蝶かな　子首
花載のこてふ山ぶき華や柳花花　岩見元信
胡蝶とり色次こてふや羽ぶき華　貞明
源氏なりて胡蝶の華や色ぶき高　長安
雲ふしき立振華ぶこてふか　重良
ちる孫せ胡蝶やうゐ嵐風　定親
胡はくひいとぶたくこう蝶つゐ　嶺利
那鄭のまくうや蝶の長ぶき華　立圓